

福島退公連 会 報

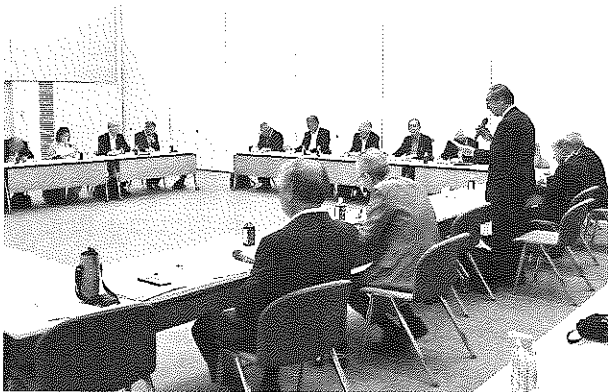
発行日 令和 7 年 (2025 年) 8 月 20 日
 発行所 室 井 勝
 〒960-8043 福島市中町 5-21 (消防会館)
 TEL・FAX 024(522)0612
 URL <https://fukushima-taikouren.com>



令和 7 年度支部連絡会議開催日時 令和 7 年 5 月 19 日 (月) 午後 1 時 場所 郡山市ビッグバレットふくしま

令和 7 年度の支部連絡会議が、県本部役員と県内各支部の事務局長出席のもと開催されました。

会議は、齋藤副会長の挨拶に続き、評議員会資料と日公連事業計画の説明があり、その後各支部の活動について発表と協議が行われました。



齋藤副会長からは、コロナ禍で滞っていた活動が通常に戻りつつあること、会員確保のため将来の会員候補である現職公務員に本会の活動を伝達してほしいこと、本日の資料を共通理解の基本にすえ、支部の実情を加味し、今後の具体的な方策に結び付けてほしいとの挨拶がありました。

<支部活動の報告>

各支部の事務局長から昨年度の活動について報告がありました。

主な内容は次の通りです。

1 具体的な取り組み

各支部とも、コロナ禍前に戻って活動を進めることができていました。取り組みに当たっては、現職や一般の人に退公連の活動をどう知らせるかということを念頭に、活動を行っている支部が多くありました。

福島支部では、伊達支部・安達支部とともに年金研修会を進めるに当たり、現職や一般の人にも広く参加を募り、日程については例年 9・10 月に実施していた研修会を退職者が年金について身近に感じられる 11 月にずらし

たとのことでした。参加者の中には、その後入会された方も出たということでした。

安達支部では、賀寿祝賀会や新年会などの参加を依頼するに当たり、直接手紙を出したり、返信用はがきをつけたりするなどの工夫をすることで、参加者が増加したとの発表がありました。

東白川支部では、研修会の開催場所を遠隔地から地元に移し、地域を学ぶという内容で参加しやすくしました。また、高額医療制度を学ぶに当たり、役場職員に説明してもらおうと同時に、役場職員にも退公連について知ってもらう機会としたとのことでした。

北会津支部では、「秋のつどい」の中で、作品の展示やステージ発表を通して、広く一般の人に参加してもらい、退公連について周知を図るとともに、ホームページの立ち上げ等も行っています。

南会津支部では、総会の後にマイナンバーカードについての研修会を行ったところ、多くの質問が出て、タイムリーな内容であれば盛り上がるのがわかったとのことでした。

いわき支部では、昨年度発表のあった相馬支部の活動を参考に、退公連ののぼり旗を作成し、ゴミ拾いの際に立てて広報活動をしたということでした。

2 課題

課題としては、役員が他の役職も兼ねており、多忙である状況についての発表がありました。

北会津支部では、これまでの活動について取捨選択を行い、参加者が満足できるもの、退職者の状況に合ったものにするための検討を加えていきたいとのことでした。

<会員勧誘について>

各支部とも、退職年齢の引き上げや再任用、他の職場での仕事継続等、引き続き働く人が多いため、入会者の勧誘に苦労されているとのことでした。

・過年度退職者で仕事を辞めてから入会する

人もいるので、アンテナを高くして声をかけていくことが大切であるとの意見もありました。

- ・勧誘方法の変更をしている支部が多く見られ、郡山支部では65歳になった方を対象に再勧誘を進めるなど過年度退職者への再度の働きかけを行っている支部もありました。

案内を出すだけでは入会にいたりず、直接会って退公連の活動を知ってもらったり、コミュニケーションを継続することで退公連に興味を

もってもらったりと、地道な働きかけが大切であるという意見が多く紹介されました。

福島県退職公務員連盟 会員の皆さまのための

団体傷害保険のご案内

団体総合生活補償保険(標準型)

加入年齢制限なし

健康の告知なし

5%団体割引

お申込みは下記のフリーダイヤルにご連絡ください

0120-216-226

(代理店・扱い者)

三井住友トラスト・ライフ・パートナーズ株式会社

本店営業部

東京都千代田区神田錦町3-11-1

(引受け保険会社)

三井住友海上火災保険株式会社

金融法人第二部 営業第一課

東京都千代田区神田駿河台3-11-1

各支部での新たな活動を紹介します

～令和6年度各支部活動の記録より～

県退公連は隔年で各支部活動の活性化を図るために、各支部福祉部・女性部の活動状況を集約し報告してきました。前回令和4年度では、新型コロナが5類に移行した年度であり新型コロナを考慮した事業が多くみられました。今回令和6年度の活動報告では、新型コロナ以前の活動に戻ると共に、新しい事業が行われていますので紹介します。

ボランティア清掃活動

- ・郡山支部では11月1日(金)に開成山公園内児童公園付近の清掃活動を17名の会員が参加し実施しました。

初めての事業であり、計画段階で郡山市や開成山の担当者との事前の打ち合わせを行い、A4版の参加案内を全会員に配布し清掃用具を持参していただきました。終了後、清掃活動の様子を民友、民報の新聞各紙に掲載していただき会員・市民へ広報することができました。

- ・いわき支部では7月6日(土)に「いわきの海をきれいに」をスローガンに四倉海岸の清掃活動を実施し、26名が参加しました。

いわきの海をきれいにする奉仕活動として海開き前の四倉海岸のゴミ拾いを実施しました。新型コロナで4年間、親睦活動や介護施設慰問は中止になっていましたが、本年度はウィズコロナでも実施可能な地域への社会貢献活動に取り組みました。事前に市と相談し、街をきれいにする運動として申請することによりごみ袋の支給や集めたゴミの廃棄にも対応していただきました。

当日は退公連いわき支部ののぼり旗を立て市民へのPRを行いました。

この他にも岩瀬支部では従前から実施していた「釈迦堂川花火大会」後の清掃活動も令和5年度から再開しています。 ※「活動の記録」は各支部に送付してあります

私の時間

私の時間 無職それとも農業



「これから何をするの？」
69歳で職を辞する時、多くの方からかけられた言葉である。「無職？」いや、これからは農作業をしながら今までお世話になってきた地域に微力ながら恩返しをしたいという思いでいた。

私の家は代々農家である。田圃や畑がある。小規模ではあるが、農家を営んでいた。しかし、職業はと尋ねられて、「農業」と自信をもって言えるほどではない。私と妻が休日に行く農業では、親が行っていた農地を維持するには厳しく、休日だけでできる農業には限界があった。次第に条件の悪い所から休耕にし、耕作面積も少なくしてきた。しかし、農業をやめようとは思わなかった。自分で収穫した物を食べるのは大きな喜びである。今までは勤めながらの農業であり、それなりの収穫もあったので、本格的に取り組むのだから収穫も増えるだろうと甘く考えていた。ところが、

石川支部 事務局長 鈴木 文雄

親が作っていた時のようにはなかなかいかない。

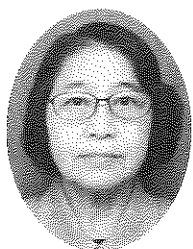
特に稲作においては、ちょっと油断すると、病害や稲が倒伏したりするなど、収穫も思ったようにはならない。その都度周りの方々に教えてもらいながら続けてきた。農業の先輩方に教えるを乞うのは日常茶飯事のこと。迷惑がらずに親切に基礎から丁寧に教えてくれる。日々学びの連続である。

本格的に取り組んで3年目。草刈りや除草剤の散布、追肥。大規模であろうと小規模であろうと手をかけるのは同じである。農作業は辛いこともあるが、成長する作物を目にすると喜びも味わえる。

あと何年農業を続けることができるか分からないが、「あなたの職業はなに？」と問いかれたら「農業」と自信を持って言えるその日が来ることを信じ、健康に気を付けながら今日も農作業に励んでいる。

You愛

心温かい会員の皆様に支えられて



白河支部（現在235名）は、会員数の減少、高齢化などにより、今年度から、組織改革が行われ、女性部と福祉部を一括りにして活動しています。主な部の活動としては、親睦

旅行、友愛訪問です。

コロナ禍で自粛していた親睦旅行は、令和5年度から再開。昨年度は、29名で山形方面への親睦の旅となりました。まず向かったのは、戦国武将上杉謙信を祭神として建立された上杉神社。歴史好きには堪らない必見スポットでした。次は、南陽市松田観光果樹園でのサクランボ狩り。たわわに実ったルビー色の大粒のサクランボをお腹いっぱいいただきました。昼食はよねおり観光センターで、米沢牛の釜めし懷石に舌づつみ。その後は、高畠ワイナリーでワインやジュースの試飲。途中、道の駅米沢で休憩をとり、帰路に着きました。会員互いの絆を益々深めることのでき

白河支部 女性部長 遠藤 愛子

た活動となりました。参加された会員の方々には、行き先を問わずいつも好評をいただき次年度の計画立案に熱が入ります。

友愛訪問活動は、毎年90歳以上の会員（現在27名）のお宅へ訪問させていただいています。少しばかりの祝い金と絵手紙、手作りの金銀折り鶴を持参します。施設に入所されている方もおりますが皆さんお元気でお過ごしです。昨年度は、お元気で100歳を迎えられた会員の方もおります。元気で長生きの秘訣は、家に閉じこもらず、老人会やお茶会、時には、太極拳等に参加することのようです。玄関先に出てこられる姿は、90歳代を感じさせないはつらつとしたご様子で、人生100年時代、まさしくその言葉通り、毎年こちらが元気をいただいています。

退公連活動は心温かい会員の皆様に支えられ、今後10年20年と継続されていくに違いありません。

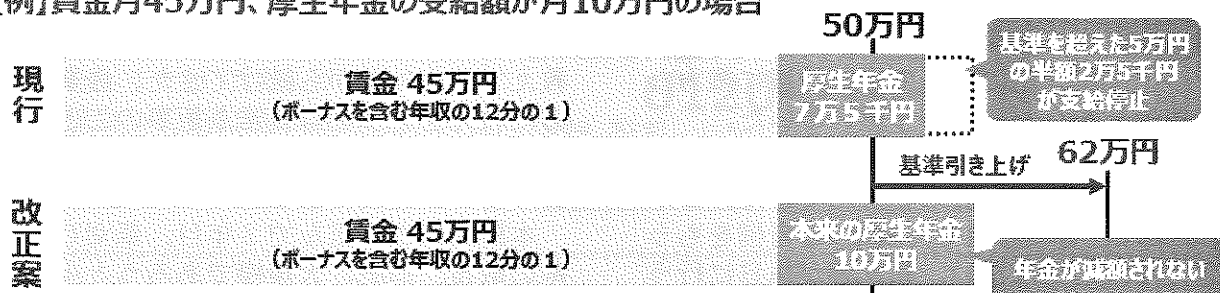
<年金情報コーナー>

在職老齢年金制度の見直し

年金を受給しながら働く高齢者の賃金と老齢厚生年金の合計額が基準を超えた場合、老齢厚生年金が減額されます。在職老齢年金制度です。

この基準が月50万円から62万円に引き上げられます。2026年4月からの実施です。

【例】賃金月45万円、厚生年金の受給額が月10万円の場合



この見直しは、本年6月に成立した年金等の一部を改正する等の法律によるもの。

見直しの効果として、年金を受給しながら働く高齢者が本来の年金を受給しやすくなり、年金の減額を意識せずより多く働くようになることなどが挙げられます。

新たに約20万人が年金を全額受給できるようになります。

+++++【事務局だより】+++++

残暑お見舞い申し上げます。

今年度、新たに支部長に就任された方です。

岩瀬支部 安藤勇司氏（前事務局長）

《百歳万歳》

ご長寿おめでとうございます。

百歳賀寿を受けられた方です。

〔相馬支部〕 西 正 子 様

大正12年8月11日生

〔相馬支部〕 佐 藤 栄 一 様

大正13年9月19日生

〔福島支部〕 嶋 原 ト ミ 様

大正14年4月13日生

〔双葉支部〕 枡 谷 幸 三 様

大正14年5月1日生

〔福島支部〕 杉 内 豊 徳 様

大正14年5月29日生

〔福島支部〕 鈴 木 ひ さ よ 様

大正14年7月13日生

広報部長に就任して

高 橋 賢 司



13年間にわたりご尽力されました大崎孝一氏に代わり、今年度より広報部長に就任した高橋賢司です。組織と会員の皆様との接点として重要な手段である会報が、効果的で親しまれるものとなるよう、

微力ではありますが、企画・編集等に力を尽くしたいと思いますのでよろしくお願いします。

私は、教職を退職してから8年目を迎えます。その間、福島県市町村教育委員会連絡協議会の事務局として、各市町村の教育委員の方々の会議や研修のお手伝いをさせていただきました。今後は、退公連の会員として、しっかりと学んでいきたいと考えております。

.....編集後記.....

各支部とも新体制が整い、順調に活動が行われていることと思います。

今年度は、日公連新聞が隔月発行となったことから、本会報も8月発行となりました。今年度も退職公務員連盟の活動を広くお知らせしてまいりますので、よろしくお願いいたします。

毎日暑い日々が続いております。くれぐれもご自愛ください。

